



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

# 2014.5

No.361

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



2014年3月29日 さいたま市見沼自然公園探鳥会 見沼たんぼクリーン大作戦

# 傷ついた野鳥を見つけたときにはどうしましょう？

小山正人、小山和美(東松山市)

今月は、野鳥救護活動の最前線に立たれている当会会員の獣医師のご夫婦にお話を伺いました。内容は、拾われた鳥たちを少しでも多く、無事野生復帰させるための道しるべともいうべきものばかりでした。

## ● 埼玉県内で保護される野鳥の実状

県内において怪我などで動物病院に運ばれてくる鳥は、年間約900羽、80～90種ほどです。野生鳥獣レスキュー事業開始から現在に至るまで、稀に保護される鳥種を含めると170種にも及びます。保護時の所見は交通事故、猫などの襲撃による骨折等の外傷、電線や建物のような人工物等への衝突による脳震盪、衰弱などです。保護数の多いのは、スズメ・ツバメ・キジバト・ドバト・ムクドリ・ヒヨドリ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・カルガモ・ハクセキレイ・ゴイサギ・コサギ・シジュウカラ・メジロ・オナガ・カワラヒワ・シメ・ツグミ・アオバズク・ツミ・チョウゲンボウ・オオタカなどです。

## ● 野生鳥獣レスキュー事業

どこに傷病鳥を連れて行くべきか？

埼玉県は、埼玉県獣医師会と傷病鳥獣保護治療の委託契約を締結し、昭和52年から野生鳥獣救護事業が実施され、現在51軒の動物病院が県指定診療機関として登録されています。

傷病鳥を発見してその保護の必要性を感じた場合、まず管轄の環境管理事務所(川越市、東松山市、秩父市、熊谷市、さいたま市浦和区、越谷市の内、管轄にあたる事務所)に連絡してみてください。最寄りの受け入れ可能診療機関に連絡をつけ次第、折り返し通報者に連絡をくれますので、速やかに指示された動物病院へ運んでください。休日でも電話の転送対応や、緊急連絡先が案内されています。拾った人が病院まで運ぶのが基本ですが、どうしても困難な場合には、その旨を伝えて相談してみてください。環境管理事務所または最寄りの市町村の職員が、現場まで引き取りに来て、受け入れ先に届けてくれるようなところもあります。

平成20年5月に傷病野生鳥獣保護の相談窓口が各市町村に設置されましたが、傷病鳥の扱いについては市町村によって、また、その時々担当者の考え方により、かなり温度差があるというのが正直なところです。残念ながら、通報電話を掛けただけで明らかに迷惑そうな態度を示し、できるだけ引き受けない方向へと説得してくる市町村もあります。

## ● 傷病鳥保護時の情報

傷病鳥の発見者や保護者からの情報は、診察時に必ず必要です。獣医師は診察の際、獣医師法のもと、必ず診療録(カルテ)を一羽毎に作成しなければなりません。従って保護者の証言がとても重要になります。いつ・どこで・どんな状況で拾われたのか、また保護後搬入までの間に餌を含め、どんなことを施されていたかについての情報も患鳥を救うために役立ちます。そしてこれらの情報は、物言えぬ患鳥の保護原因を追究して、今後同じような犠牲を出さないための対策づくりに活かされることにも繋がるのです。鳥を保護される場合は、これらの情報提供にぜひともご協力をお願いいたします。

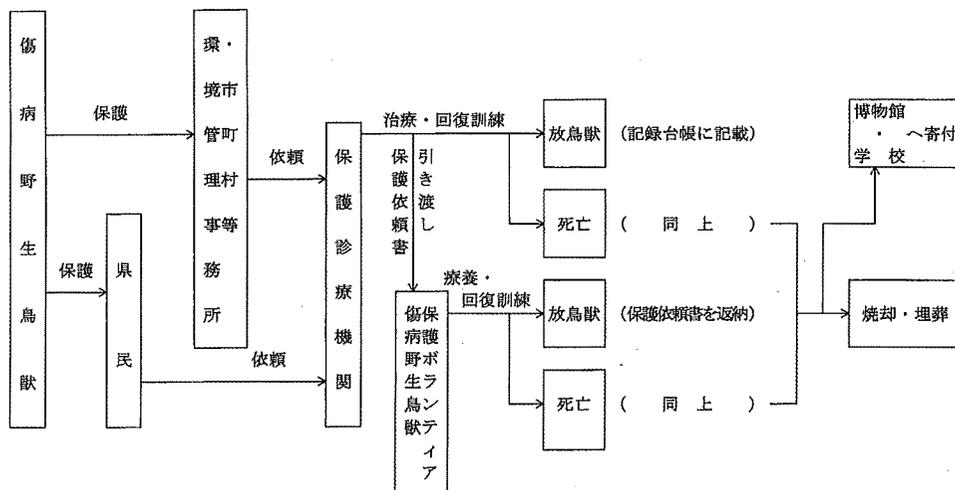
## ● 野鳥保護の際やってはいけないこと

ところで折角保護した鳥に良かれと思って対処したことが、かえってその鳥の自然復帰の妨げになっていた！ という事象は、意外多いのです。不本意な結果になってしまうのを防ぐためには、特に次の3点について厳守してください。

### ① 自分だけで治療しようとする

野生鳥獣への対処にはペット動物以上に専門知識を要するのですが、その生理や生態学ですらまだ十分調査が進んでおらず、当然野生動物医学も未発達ということになります。ですから、たとえ野生動物の臨床に携わって

## 傷病野生鳥獣の保護の手順



\*天然記念物又は種の保存法指定種については、県各環境管理事務所又は県みどり自然課に連絡してください。

いる獣医師であっても、そうした知識や経験の豊富な人が極わずかであるとも言えるでしょう。思い込みや見当違いによる給餌や介護で上手く対処できる訳がありません。どこへ連れて行けば良いかわからず、でもなんとか助けたいという一心で面倒をみた結果、悲惨な結果になっているケースがとても多いです。こういう事態を防げない我が国の野生鳥獣管理行政には、多くの問題を感じます。

### ② ペットとして飼おうとしない

野鳥の餌の種類はととても多彩で季節ごとの変化に富み、部屋の中での管理やペットフードだけで長期健康を維持するのは非現実的です。野外で生きてこそ、本来の健康状態と活力を保つことができます。よくなつくからといって飼うのはとても野鳥に負担をかけますし、彼らの基本的な尊厳を奪うことにもなります。ちなみに現在、スズメといえども野鳥を飼うことは禁止されています。

### ③ インターネットの情報を信用しない

ネット上の情報を当てにししないでください。たとえ内容が的確なもののものであっても、あくまでも応急処置用です。長期飼養や治療に適應するものではありません。残念ながら不適切な情報も多く出回っており、もし保護後すぐ動物病院に搬入されていれば野生復帰

できていたはずの鳥が、そういった誤った情報を鵜呑みにしたやり方で飼育続けられることにより、2度と放鳥できない状態に陥るケースが横行しています。出所や発言者名のはっきりしない情報の実行や、知らない相手と掲示板などで延々とやり取りして、医療機関への搬送を遅らせることは絶対に避けてください。休日や夜間で役所と連絡がつかなくても、獣医師会所属の病院に相談すれば野鳥診療の可能な病院を紹介してくれることもあります。

### ● 野鳥を保護すべき状態とは？

さて次に大まかにですが、成鳥と雛に分けて保護を要するケースをあげてみます。

#### ① 成鳥や若鳥の場合

- ア) 出血・震え・呼吸困難・眼閉・逃げない・低体温・高体温・血色異常・無反応な時
- イ) 犬や猫などに襲われた場合

特に猫による怪我は、細く鋭い犬歯や爪による体内深部へ大きな痛手を受け、表面的には無傷に見えても重症化しやすくなります。

#### ウ) そばに死亡している鳥のいる場合

親兄弟・つがい相手などの家族鳥がそばで死んでいる場合など、生き残っている鳥も同じ原因等で弱っていることがあります。

## エ) 窓へ衝突した場合

すぐ病院へ連れて行けない時には、段ボール箱に入れ暗く静かな場所に1～2時間そっとしておきます。それでも飛んでいなければ、無理に飛ばさず病院へ搬送してください。

## ② 雛鳥を見つけた場合

### ・晩成性の巣内雛

雛が元気で反応もよい場合には、巣に戻します。巣が壊れた・呼吸が早い・血色や動きが悪い場合などは保護が必要です。ツバメはすぐ近くに代わりの人工巣を作ると使ってくれる場合もありますが、その際天敵に狙われやすい所は避けてください。他種鳥については代わりの巣を作っても、使わず放棄してしまうことがほとんどでしょう。

### ・巣立ち雛

怪我などなく親兄弟が近くにいる場合、そのまま親鳥に警戒されない離れたところで見守ってみてください。猫やカラス・車・熱中症などのリスクは、安全な木陰などの高めのところに置いて回避し、1時間くらい離れたところで観察します。その間親が餌を運んでくれば大丈夫でしょう。ずっと親が来なかったら保護してください。

### ・早成性の鳥（カモなど）

母親がどこにいるかわかる場合、はぐれた雛を群近くに置き、雛の鳴き声が親に届いているかどうか身を潜めそっと観察します。不用意に母親に近づけば、親だけ警戒して飛んで逃げてしまい、もう戻ってはきません。そうすると子ガモは人の手で育てなければならなくなるので注意してください。最近の水辺ではない道路の植栽に卵を産むケースが増え、孵化後の移動中に母親が車にひき殺される、民家の庭の水場を追い払われ孤児になる、といった事例が増えているそうです。

## ● 見つけた傷病鳥の搬送の手順

- ① 適当な大きさのダンボール箱などを用いて必要に応じ小さな空気穴をいくつか開け、きれいで柔らかい布かキッチンペーパー等を底に敷きます。箱は中で動き回れないよう、体長の1.5倍程度が理想的です。
- ② 鳥をそっと箱に移しますが、保定の際に

は小型鳥でも必死に嘴や脚趾で人の目などを突いて攻撃してくることがあります。油断せずに眼鏡や手袋で防護することをお勧めします。鳥の視界を遮りタオルなどで身体ごと包み込むと大人しくなり比較的的安全です。呼吸はできるよう、締め付けには注意してください。

特に猛禽類やサギ類などの扱いは、大怪我を負う危険性も高いので、無理をせず役所をお願いしてください。

- ③ 飛び出ないようにふたをしっかりと閉めます。
- ④ すぐに病院へ運べない場合は、暖かく暗い静かな場所で、ペットや子供の手の届かないところに置いてください。
- ⑤ 立てない鳥に無理に餌や水を与えると誤嚥させることがあります。
- ⑥ できるだけ速やかに動物病院に連れて行ってください。

※患鳥を触る前後には手をよく洗ってください。

## ● すぐに病院へ連れ込めないときには

### ① 安静と保温

保温することによって、余計なエネルギーの消耗を防ぐことができます。前述同様に安静を保ちます。ペットヒーターのような熱源がなければ、お湯入りペットボトルやカイロをタオルで巻いたものも代わりになりますが、低温火傷などに充分注意してください。

温度の目安は以下の通りです。

- ・体重50g以下の鳥：25℃～35℃
- ・体重50g～500gの鳥：20℃～30℃
- ・500g～1kgまでの鳥：15℃～25℃
- ・巣内雛は32～35℃、巣立ち雛は30℃程度

あくまでも目安ですから、鳥の状態や環境温度をみながら調節します。温度計湿度計を鳥のそばにおいて実際に測ることが重要です。

※温め過ぎによる脱水に注意

例えば小型鳥の保温目安は25～35℃とありますが、冬場にこの目安内の35℃まで加温したら暑過ぎ、脱水を招き、返って鳥に負担をかけることとなります。体温が下がってしまうまいよう、鳥の状態と周囲環境温度をよく観察していれば、20～23℃くらいでも十分な

場合も多いはずで。

最も高温での保温を要するとされる 50 g 以下の赤裸の雛については、海外の信頼のおける成書などに、37~38℃くらいを推奨する記載もありますが、高温多湿の日本でそのまま同じ保温をしてしまうと限界を超え、夏など特によく脱水や熱中症に陥っている症例が運ばれて来ます。巷では 39℃以上に保温するよう勧める情報があたかも常識かのように蔓延しています。鳥が高体温だからという理屈からですが、それは大変な勘違いです。体温 36℃の人間が長時間 36℃の部屋にいたならば、脱水し熱中症になってしまいます！ しつこくて申し訳ありませんが、現実に当院に運び込まれる小鳥の多くは、こんな目にあっているのを知っていただきたく、ここは敢えて繰り返させていただきます。

それから呼吸困難・炎症や出血の激しい場合にも、暑過ぎる保温で病態を悪化させてしまいますので要注意です。

## ② 水分補給

傷病鳥は大抵 10%程の脱水があります。スポイトや綿棒などを使って嘴の脇に一滴垂らし、うまく飲み込むのを確認してからもう1滴を飲ませます。ポカリスエットなどスポーツ飲料を水で倍に薄め温めてから与えると吸収も良いでしょう。1日の水分必要量は、100 g以上の鳥で体重の約5%、小型鳥ほど代謝が早く体重当たりの必要量は多くなり、20 g以下の鳥では体重の約50%が必要になり、赤裸の雛では朝から晩まで、10~15分・20~30分間隔で補液しなければなりません。

また、自分で水を飲まない鳥にも小まめに与える必要があります。

## ● 雛を拾った時の行政の対応について

埼玉県庁では野鳥の雛を拾ったと連絡をしてみても、その場に置いておくか巣に戻すよう指導してきます。たとえ保護が必要な状況であったとしても、雛と言うだけで機械的に保護対象外にされます。どうしても助けたい場合は信頼のできる獣医師に直接診てもらってください。

## ● カラス、ドバトについての扱い

ハシボソガラス・ハシブトガラス・ドバトは有害鳥獣であるという理由から、数年前に野生鳥獣レスキュー事業の対象から外されました。そのため埼玉県庁に連絡しても救助を断られます。ただし一部の動物病院は以前と同様に診察をしていますので、直接病院に診察可能かどうかを問い合わせてください。

## ● 野生鳥獣レスキュー事業の今後

傷病鳥獣保護は鳥獣保護法の中で、鳥獣保護思想の普及啓発の一環として実施するものと位置づけられています。

ところが数年前、環境省の審議会で傷病鳥獣保護のあり方について見直すよう答申が出され、それを受けて現在日本獣医師会の野生動物対策検討委員会で審議されています。その委員会が平成23年10月の中間報告の中で、希少動物のみを保護しその他の動物は助ける必要がないという極端なことを発表したことで、傷病鳥の保護に携わっている獣医師の間で大きな波紋を呼んでいます。数年後の鳥獣保護法改正にあたり、環境省がパブリックコメントを募集すると思いますので、その時には野鳥の会の皆様もご意見を出していただけたら幸いです。

## ● 死んだ鳥をみつけたら

最後に死亡鳥を研究資料として提供できる送付先のご紹介と、その取り扱いの注意点について少し記載します。

① 山階鳥類研究所では斃死鳥体を学術標本として集めています。冷凍庫のスペースがいつも確保されているわけではないので、送る際確認をしてください。「いつ、どこで、誰が…」という情報が重要なので、それもお忘れなく。(公財)山階鳥類研究所 資料室

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115

Tel: 04-7182-1101 Fax: 04-7182-1106

② 種の保存法の指定種の場合(オオタカ・クマタカ・ハヤブサ・オジロワシ・オオセッカ)

種の保存法指定種は、生きている場合はもちろん死体であっても県を通して環境省に届出をしなければなりません。死亡個体は、原則として県の学術研究機関(環境科学国際センターや自然史博物館等)に搬送されます。



## 野鳥情報

**行田市利根大堰上流側** ◇1月21日正午頃、ウミネコ1羽。カンムリカイツブリ冬羽多数の中には夏羽の個体1羽。アカエリカイツブリ冬羽1羽、これは珍しい(榎本秀和・みち子)。

**北本市北本自然観察公園** ◇1月24日、頭が白っぽく胸部も黒斑が薄く全体が白っぽいツグミ1羽(大川清久)。

**熊谷市大麻生** ◇1月27日午前11時過ぎ、河川敷の上空を数羽のヒメアマツバメが飛ぶ。いい条件でじっくり観察することができた(榎本秀和)。

**坂戸市浅羽ビオトープ** ◇1月28日午前10時頃カオグロガビチョウ1羽=下写真。高麗川本流沿い藪の開けた場所で自己初見。暫く観察、ガビチョウ、クロジが採餌に来た(鈴木寿男)。



**蓮田市黒浜沼** ◇2月2日、ベニマシコ♂2羽、♀1羽。バン1羽など(本多己秀・久文子)。

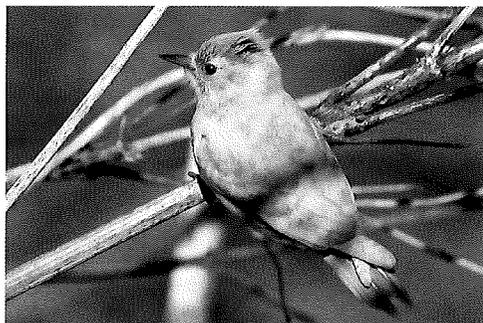
**蓮田市西城沼公園周辺** ◇2月3日、亜種オオカラヒワの群れがシデの木の冬芽をついばんでいた。モズが季節外れの高鳴きをした。オオタカが上空を旋回して南に流れた。他にカケス2羽、アオサギ1羽、ツグミ、カワセミ等。2月11日、エナガ5羽、メジロ2羽、シジュウカラ3羽、コゲラ1羽の混群が公園の木の間に移動。カメラを始めて1年という老夫婦がコゲラを撮っていた。2月19日、チョウゲンボウ♀が農家

の上空を飛んで北に飛び去った。コジュケイ1羽が雑木林の下生えの茂る林床を歩いていた。久しぶりに見た。ジョウビタキ♀がいつもの場所で地面に降りては元の枝に戻っていた。2月24日、屋敷林にキジバトより大きくカラスより小さいタカを見つけた。上面が淡青灰色で下面は白っぽい。一見ツミ♀かと思ったがハイタカ♀成鳥だった。近所の人に教えてあげたら、驚いていた。見つけてから30分ほど羽繕いなどして飛び去った。他にツグミ4羽、アオジ、エナガ、シロハラ等(長嶋宏之)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇2月3日、エナガ3羽、シジュウカラ、アオジ、カシラダカ、シメ、ツグミ、アカハラなど。元荒川でタシギ6羽、イソシギ1羽、イカルチドリ2羽、ヒドリガモの群れ(藤原寛治)。

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇2月2日、昭和沼でヨシガモ7羽、トモエガモ1羽、オオバン23羽など。カモ類が少なく、特にコガモ、オナガガモが少なかった(本多己秀・久文子)。◇2月13日、トモエガモ♂4羽♀1羽、ヨシガモ♂4羽♀4羽、他にカモ7種、カンムリカイツブリ4羽、オオバン40羽土。アシ原でオオジュリン、カワセミ、ジョウビタキ♀。ここで珍しくトビ、チョウゲンボウなど。2月16日、トモエガモ♂1羽、ヨシガモ♂10羽、ミコアイサ♀1羽、久しぶりにハシビロガモ♀5羽とオカヨシガモ♂1羽♀1羽、他にカモ7種。カンムリカイツブリ3羽、セグロカモメ1羽、亜種ダイサギ、亜種チュウダイサギ、ゴイサギ。林でピンズイ3羽、コゲラ、ツグミ。ここで初認のオナガ5羽。オオタカが小鳥を捕まえて飛び去った。アシ原でオオジュリン多数、メジロ。2月26日、トモエガモ♂2羽、ヨシガモ♂15羽♀14羽、他にカモ7種。オオバン30羽土が陸で採餌。浮島でオオタカが羽繕いする側に、恐れる様子なくアオサギ10羽が休んでいた。アシ原にオオジュリン多数、亜種ダイサギ、亜種チュウダイサギ、カワセミ、ジョウビタキ♀、アオジ、ホオジロなど。キジバトが巣材をくわえて常緑樹に入った(長嶋宏之)。

**蓮田市黒浜** ◇2月20日午後3時30分頃、ホオジロ、カシラダカを見ていると、白い個体が視野に入り、何かと思って見るとコゲラ♂のアルビノ（白化個体）だった。＝下写真（3月3日撮影）。近寄って見たかったのだが、犬が来て飛んで行ってしまった。少し、距離があったので細部の観察が出来なかったのが残念！（菊川和男）。



**加須市加須はなさき公園** ◇2月27日、ハシボソガラスが巣材をくわえてメタセコイヤに運んだ。道路予定地の草原にキジ♂1羽。雨上がりの小さな水溜りでスズメが数羽喧嘩しながら水浴び。カケスが1羽悠然と樹冠を飛んだ。ヒドリガモ40羽土が芝生で採餌。他にシロハラ、ウグイス、ツグミ、シメ、オオバン、バン等（長嶋宏之）。

**久喜市菖蒲町上大崎 N36.0504 E139.6122**  
◇2月28日、ミヤマガラス200羽土が耕耘していない田圃で採餌。群れの中にコクマルガラス淡色型1羽、暗色型5羽（長嶋宏之）。

**鴻巣市境 N36.0984 E139.5439** ◇2月28日、アメリカヒドリ♂の交雑体1羽。他にヒドリガモ、キンクロハジロ、マガモ、コガモ、オオバンなど（長嶋宏之）。

**羽生市羽生水郷公園** ◇2月26日、アリスイが地面で採餌。ヨシガモ♂19羽♀16羽が陸で採餌。繁殖羽のカイツブリ1羽。ジョウビタキ♂1羽、ヒバリが囀っていた。他にツグミ、シメ、オオジュリン、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、モズ、ウグイス、ゴイサギ等（長嶋宏之）。

**狭山市広瀬台** ◇3月9日、工業団地でインヒヨドリ♂1羽を観察。県内では初めて見

た（岡部 悟）。

**上尾市中新井** ◇3月10日午後1時頃、昼休みに窓から外を眺めていると、西から東へ高速で飛び去る鳥影。一瞬でしたが、翼と尾羽の形、羽ばたきの感じ、間違いのないと思います。ツバメ 来た～！（浅見 徹）。

**坂戸市浅羽ピオトープ** ◇3月12日午前8時35分、笹藪の方から「ホーホケキョ ケキョ」。ウグイスの初鳴きだ。水路右岸の木立の地面にアオゲラ♂1羽。キツツキが地面を歩きまわるなんて、採餌か？ 暫くして木に上がる。排水門前のワンドの柳の枝にカワセミ♀1羽、下嘴に紅塗って！ 杭上を移動するジョウビタキ♀1羽。上空高くでオオタカ1羽が、カラス3羽にからまれながらも、悠々と飛翔（増尾 隆）。

#### 野鳥情報をお待ちしています

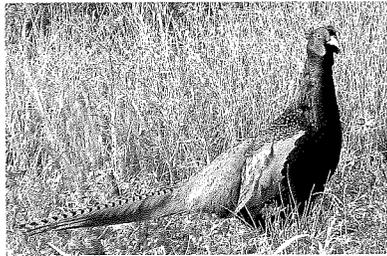
こんな鳥がもう渡ってきたよ。見慣れたあの鳥がこんなことをやっていたよ。こんな鳥を見たよ。みんなにちょっと知らせたい野鳥の情報を気楽にお寄せください。常連さんは引き続き歓迎、新人さんはもっと歓迎です。

メールで toridayori@hotmail.com にお送りいただくのが最も便利です。写真も一緒にお送りいただけると、カット写真として掲載できるかもしれません。ハガキやFAX（048-825-0460）でも受け付けています。間違いがあるといけませんので、電話など口頭での連絡はお受けできません。まれに、お名前を忘れる方がいます。特にメールの場合、漢字のフルネームをお忘れなく。

いただいた情報はできるだけそのまま掲載しようと心がけていますが、全部を掲載することはできません。慎重さを要する情報は、見送らなければならない場合もあります。但し、野鳥記録委員会ではありませんので、県内野鳥リストに掲載されていない種の、写真などの裏付けがない情報でも、記述されているその場の状況、観察された特徴等から、情報として掲載しても差つかえないと判断したときは、そのまま掲載することもあります。採否はすべて編集部にお任せください。



## 行事案内



キジ(中村豊己)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費**：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻**：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日(土・祝)

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から  
境車庫行き8:45発バスで「上宇和田」下車、  
北方向に徒歩約5分。

担当：佐野、植平、佐藤、竹山、田邊、村上  
見どころ：新緑の中、おなじみの鳥たちに加え、  
渡りの途中の鳥たちも探します。昨年はシラコバト、ムナグロ、サシバなどが観  
られました。

### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(月・祝)

集合：午後1時、JR武蔵野線南船橋駅前。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和12:01→  
南浦和12:04→南船橋12:54着。

担当：杉本、伊藤、手塚、野村(修)、長谷部、  
菱沼(一)、渡邊、和田

見どころ：潮回りにより午後の開催です。こ  
れから繁殖地に向かう夏羽のシギ・チドリ  
を観察します。

解散：午後3時過ぎに現地解散。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51  
発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、

飛田、中川、村上

見どころ：初夏の日差しと爽やかな風の中、  
ツバメたちが舞い、土手際は草花が彩か  
です。猛禽類にも期待したい。

### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月11日(日)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口  
バス停前。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、田中、  
長嶋、長野、菱沼(一)、星野、吉安

見どころ：渡りの途中のムナグロの群れとそ  
れに混じっているシギを観察します。黒浜  
沼周辺ではコアジサシ、オオヨシキリなど  
の夏鳥を探します。鮮やかな春の装いのサ  
ギ類、キジ等も楽しみです。

ご注意：今回は元荒川の川島橋左岸から歩き  
だして、黒浜沼(環境学習館)までの片道  
コースです。車で来られる方は、環境学習  
館ではなく北側に新しく出来た“緑のトラ  
スト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用  
してください(川島橋まで徒歩約15分)。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東  
口、集合後バスで現地へ(注意：担当者は

8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。後援：さいたま市立浦和博物館  
担当：須崎、青木、赤堀、浅見、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田、若林  
見どころ：1ヵ月前まで主役だった冬鳥は去り、夏鳥が主役に変わります。鳥の数は少なくなりますが自然観察には最高です。キジ、ヒバリが大きな声で迎えてくれます。

### 栃木県・奥日光 戦場ヶ原探鳥会 (要予約)

期日：5月18日(日)  
詳細は4月号をご覧ください。

### 加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月24日(土)  
集合：午前8時40分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。  
交通：東武伊勢崎線春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34。JR宇都宮線大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。  
共催：加須はなさき公園管理事務所  
担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊  
見どころ：若葉が萌える木々の間を飛び交う身近な野鳥を探します。昨年見られた渡りの途中のあの夏鳥や、巣材をくわえていたあの鳥たちは、きっと今年も姿を見せてくれるでしょう。

### 長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：5月24日(土)～25日(日)  
詳細は4月号をご覧ください。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月25日(日)  
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。  
解散：正午ころ、稻荷山公園。  
担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、星、水谷、山口、山本  
見どころ：入間川にやって来た夏鳥たちを探

します。ツバメ、イワツバメ、コチドリ、ササゴイ、オオヨシキリ。一度にすべて見られることはなかなかありませんが、あとはあなたの運しだい？

### 2013年埼玉県内鳥見ランキング結果

#### 普及部

恒例となりました県内鳥見ランキング、2013年の結果を発表いたします。

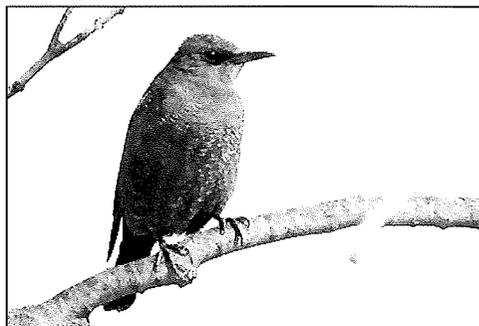
観察鳥種数部門は、2011年チャンピオンの石塚敬二郎さんが見事返り咲きました。記録も176種と、これまでの最高172種を超えるすばらしい記録です。探鳥会参加回数部門では、さいたま市の磯崎知子さんが46回の参加で、1位となりました。

#### 2013年観察鳥種数ランキング

| 順位 | 鳥種数 | 氏名     | 住所    |
|----|-----|--------|-------|
| 1  | 176 | 石塚 敬二郎 | さいたま市 |
| 2  | 144 | 千島 康幸  | 小川町   |
| 3  | 143 | 吉原 早苗  | 北本市   |
| 4  | 140 | 石塚 奏   | さいたま市 |
| 4  | 140 | 佐藤 宏   | 越谷市   |
| 6  | 122 | 今村 富士子 | さいたま市 |
| 7  | 119 | 磯崎 知子  | さいたま市 |
| 8  | 102 | 榎本 秀和  | 鴻巣市   |

#### 2013年探鳥会参加回数ランキング

| 順位 | 参加回数 | 氏名     | 住所    |
|----|------|--------|-------|
| 1  | 46   | 磯崎 知子  | さいたま市 |
| 2  | 44   | 今村 富士子 | さいたま市 |
| 3  | 43   | 吉原 早苗  | 北本市   |
| 4  | 29   | 佐藤 宏   | 越谷市   |
| 5  | 18   | 石塚 敬二郎 | さいたま市 |
| 6  | 10   | 石塚 奏   | さいたま市 |



1月18日の仙元山探鳥会で現れたインソヒヨドリのみ1羽。1ヵ月後の2月19日、大雪にもめげず、元気に飛び回っていました。(田島利夫)



## 行事報告

12月21日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア：10名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

12月22日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加：62名 天気：晴

ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ イカルチドリ イソシギ セグロカモメ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ルリビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (33種) 出発前に探鳥会の説明をしているとオオタカがカラスにモビングされながら飛来し、幸先良いスタートになった。村国池ではカワラヒワの30羽近い群れ、キセキレイ、カワセミで盛り上がる。上空にはチョウゲンボウが数回登場し、エナガも近くで観察できた。下見では冬鳥の数は少なく苦戦が予想されたが、33種が確認され参加者の皆さんも鳥見を楽しめたようだ。(長野誠治)

12月23日(月、休) カモのカウント教室

参加：34名 天気：曇

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ (6種) 毎年1月実施のカモ科カウント調査に向けて、研究部主催の初めての試み。参加者は10人程度と予想していたが、ふたを開けてみたら30人超。準備した資料が足りなくなった。嬉しい悲鳴とは、まさにこの状況。カウント調査は初めての方の他、もう何年もやっているが自信がないので参加したという方や、特に調査の予定はないけれど参加した方も多かった。小荷田・前研究部長がマニュアルに基づいて詳細な説明を行い、質問も多かった。説明の後、実際に公園の池に集まるカモを各自持参したカウンター

で数えてみた。その結果は90羽～140羽と、人によって大きく違った。この違いは、カウントする人の識別力や性格によるもの、とのこと。難しいけれど、要は小荷田さんも言われたように「自分で納得できればよい」。1月のカウント調査に参加される皆様、寒さに注意してがんばってください。

(小林みどり)

12月28日(土) 幸手市 宇和田公園

参加：65名 天気：晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ イカルチドリ イソシギ セグロカモメ トビ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (37種) (番外：ドバト) 好天の中スタート。早速ジョウビタキがしきりに頭を上下し挨拶してくれた。水路に出て土手の上からカモ類を探すが、コガモとカルガモしか見つからない。突然カワセミが皆の目の前を横切り、盛り上がった。田んぼではノスリが気持ちよさそうに舞っていた。シラコバトが見られなかったのが心残りだった。(中里裕一)

1月4日(土) さいたま市 さぎ山記念公園

参加：48名 天気：晴

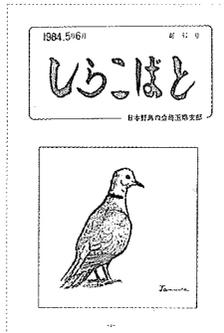
コジュケイ キジ オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (38種) (番外：ドバト) 新年の挨拶を交わしながらの探鳥会。下見では鳥影が少なかったが、さすがベテラン会員たちの目は、次々と鳥を見つけてくれた。この探鳥会では初めてのエナガも出て、毎年1回同じ時季、同じコースの探鳥会なのに、26年目で71種。探鳥会後の野外懇親会も楽しい時間を過ごした。(海老原美夫)

# 『しらこぼと』創刊 30 周年

編集部

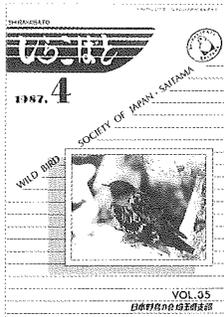
1984 年5月・6月  
合併号

題字は、日本野鳥  
の会会長 山下  
静一(当時)



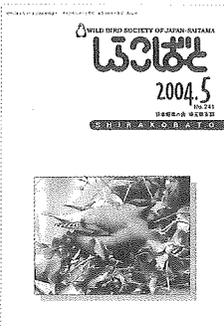
1987 年4月号  
通巻第 35 号

題字はそのまま  
で、デザインを一  
新



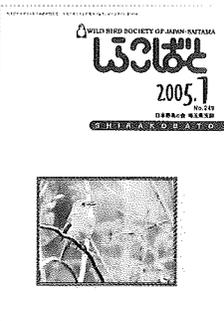
2004 年5月号  
通巻第 241 号

20 周年を記念し  
て、今に続く表紙  
にリニューアル。



2005 年1月号  
通巻第 249 号

全国に先駆けて  
表紙をカラー化。



1984 年5月・6月合併号を創刊号とする『しらこぼと』が、先月号で360号を数え、満30年を迎えました。当会の創立とともに産声を上げたこの会報が、皆様のご声援とご協力により一度の欠号もなくこの日を迎えたことに、喜びと感謝の念を禁じえません。30年といえば、その時生まれた赤ちゃんが、今では立派なお父さん・お母さんになっている年頃です。

振り返って見ると、創刊当時から最新号まで、面白い記事や役に立つ記事が時代に関係なく綺羅星のごとく散在しています。探鳥会報告や野鳥情報には観察記録としての価値があります。その時々の特集記事には、今でも少しも色あせることなく十分に役立つ情報があふれています。

これらの貴重な資料(記事)を押し入れの片隅に埋もれさせてはいけません! 何とか、新しい会員や本会会員以外の自然保護に関心のある方々の目にも触れる機会を作りたい。できることなら、自然保護活動の一助として、本誌を利用していただきたい。

そんな思いで、創刊30周年を機に本誌『しらこぼと』の電子化(PDF化)とその公開を検討し始めました。手始めに、本会のホームページに創刊号全ページと、過去の主な記事の総目次を掲載することにしました。4月末の掲載を目標に作業を進めていますので、この5月号がお手元に届くころには既にホームページに載っているかも知れません。

野鳥を橋渡しに、本会の活動が自然保護につながる有意義なものとなるための情報交換の場として、および本会会員増のためのツールとしても、どうぞ今後とも『しらこぼと』をご利用ください。ちなみに、『しらこぼと』全号が国立国会図書館に収蔵されていて、そちらでの閲覧も可能です。



● **自分たちの行動を振り返る**

事務局に届いたメール。「公園や寺社、調整池等で、長時間同じ場所を占有してバードウォッチングもしくはカメラでの撮影をする方がいます。非常に迷惑です。みんなで譲り合って楽しむところであり、一部の方だけの場所ではありません」

私たちの行動が、知らず知らずのうちに、他の人たちの迷惑になっていることはありませんか。フィールドで見かけるバードウォッチャーや野鳥写真家たちで、会員は今や少数派ですが、野鳥の会は、マナーの大切さを訴え続けます。個人でも探鳥会でも、常に自分たちの行動を客観的に見直すことが極めて大切です。

詳しくは、「本部HP→目的別に探す→フィールドマナー」をご覧ください。

● **20 周年・日本ワイルドライフアート協会展**

野生生物の生命の美しさを表現する絵画、立体アートの美術活動を続けて 20 周年を迎え、約 50 点を展示します。

日時：2014 年 7 月 10 日(木)～16 日(水)、  
11 時～18 時、ただし初日 14 時～18 時、  
最終日 11 時～14 時、休館日 13 日(日)

場所：山脇ギャラリー(〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-21、TEL 03-3264-4027) 連絡先：TEL03-3312-0055(小林)

● **さいたま市緑区第 9 回環境講演会**

3 月 9 日(日) 同区中尾のプラザイーストにて、「見沼田んぼのホタルを復活させる夢を実現しよう」のテーマで開催され、約 200 名が集まりました。この講演会は当会が後援し、楠見邦博監事が実行委員とし

て参加しました。

● **会員の普及活動**

3 月 9 日(日) 比企郡小川町金勝山の登山道で開催された小川げんきプラザ主催「春一番! うきうきバードウォッチング」で千島康幸、松下光、倉崎哲郎が指導しました。

● **会員数は**

4 月 1 日現在 1,825 人。

**活動と予定**

● **3 月の活動**

3 月 8 日(土) 『しらこぼと』4 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、長嶋宏之)。

3 月 16 日(日) 役員会(司会：浅見徹、各部の報告・行事予定の一部変更・新パソコン管理規程案・その他)。

3 月 17 日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』4 月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

● **5 月の予定**

5 月 3 日(土) 研究部・編集部・普及部会。

5 月 10 日(土) 6 月号校正(午後 4 時から)。

5 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

5 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

**編集後記**

表紙写真も 30 年目の大改革!! というほどのことでもありませんが、初めて探鳥会の集合写真を使ってみました。探鳥会ご担当の皆さんにお願い。今後もできれば続けたいので、個人の写真ではない「探鳥会の写真」をお送りください。探鳥会ご参加の皆さんにもご協力をお願いします。もしかしたら、お姿が表紙を飾るかもしれません。(海)

しらこぼと 2014 年 5 月号(第 361 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社